

クラウドファンディングを通じた防災・減災活動 ～減災連携研究センターの3年間の取組み～



Nagoya University Crowdfunding

名古屋大学クラウドファンディング

クラウドファンディング 3年間の概要

実施年度	2018年度	2019年度	2020年度
テーマ	戦災で埋もれた「昭和東南海地震」の記録と記憶を後世に残したい	迫りくる！スーパー伊勢湾台風に備えるために	災害を伝える場所を巡るオンラインツアー「災(さい)とSeeing」
寄附額	¥4,735,000円 (目標¥3,000,000円)	¥2,559,000円 (目標¥2,000,000)	¥1,503,000円 (目標¥1,000,000)
寄附者	延べ276人	延べ176人(対前年-100人)	延べ77人(対前年-99人)
担当者 (敬称略)	【営業部】西川、田代、北川、手塚、利藤 【技術部】武村、山中、都築、宮尾、山本、浦谷	田代、野田、荒木、長江、末松、橋富	【営業部】菅沼、千葉、利藤 【技術部】護、宮尾、山本、児玉

戦災で埋もれた「昭和東南海地震」 の記録と記憶を後世に残したい（第1回：2018年度）

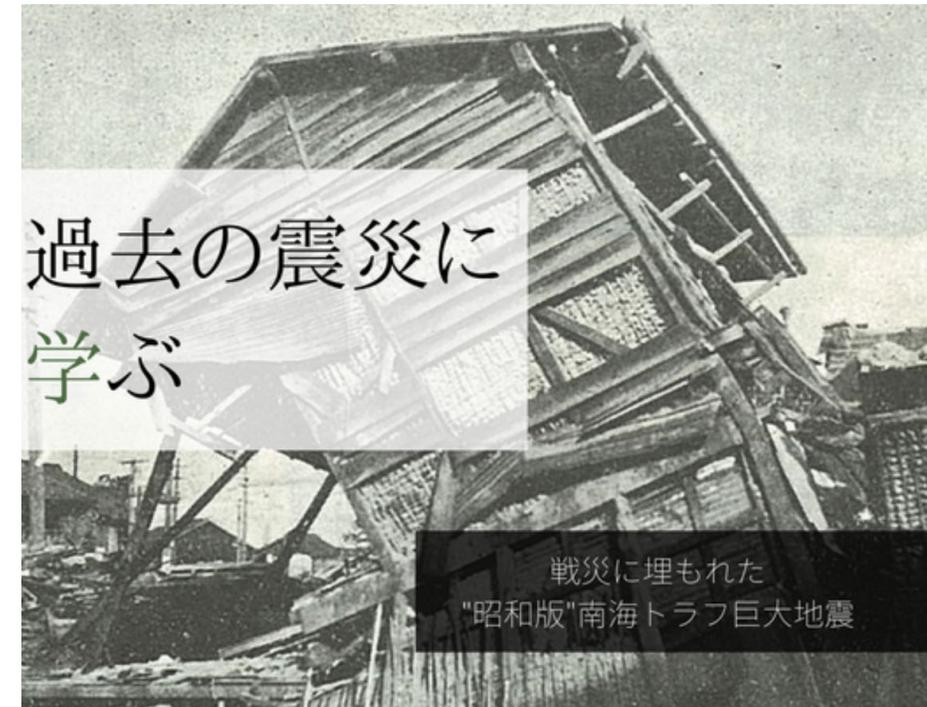
【プロジェクト本文】

1944（昭和19）年に発生した「昭和東南海地震」を知っていますか？

戦時中に発生したこの地震では、1,000名を超える死者・行方不明者がでており、“昭和版”南海トラフ巨大地震と言われています。

しかし、戦争の最中に発生したため、当時を物語る資料が十分に整理されていません。地震発生から70年以上が過ぎ、当時を記憶している方もご高齢になっています。

今後発生する南海トラフ巨大地震に備え、その教訓を活かすために、当時の記録や記憶をまとめ、伝えていくためのプロジェクトを立ち上げます。

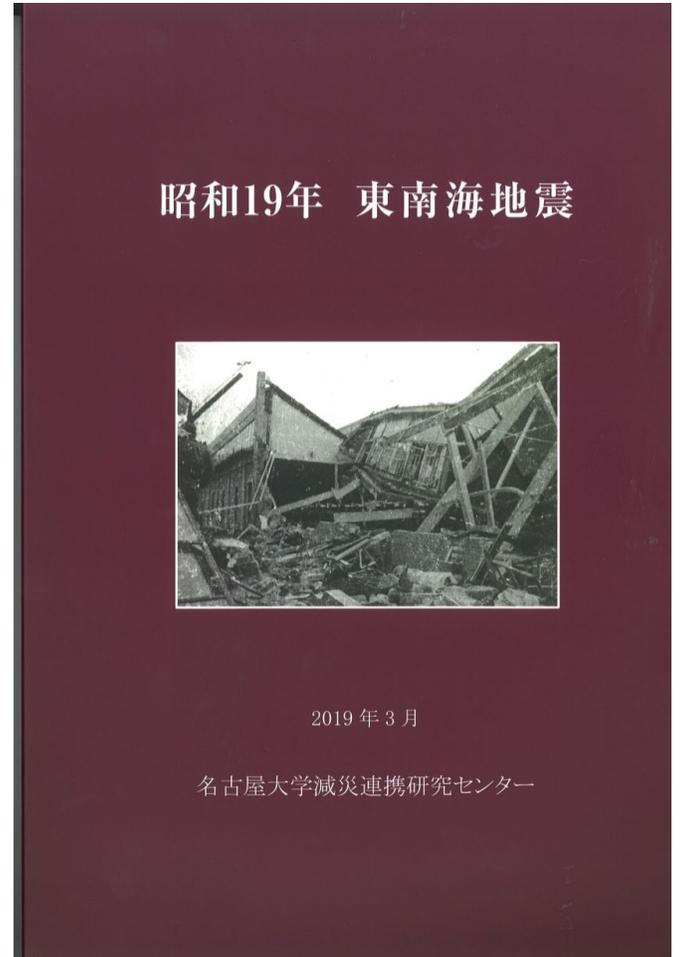


昭和19年東南海地震と題した報告書作成を行った（400部）。完成した報告書は寄附者に寄贈するとともに、愛知県内の全図書館（**117図書館**）に納めることで、震災の本当の姿を広く多くの方々に知っていただく活動の一環とした。

目次と執筆者（敬称略）

- 第1章 昭和東南海地震の地震像（山中佳子）
- 第2章 被害統計と震度分布（武村雅之）
- 第3章 東南海地震と地震学（武村雅之）
- 第4章 紅の血は燃ゆる（都築充雄、浦谷裕明）
- 第5章 慰霊碑・記念碑・遺構（武村雅之）
- 第6章 愛知県の郷土資料が語る被害の様相（宮尾浩一）
- 資料編(1)見てみよう！歴史地震記録と旬の愛知
（山本真一郎）
- 資料編(2)減災ライブラリー閲覧可能資料（浦谷裕明）

残部僅か！



伊勢湾台風から60年（第2回、2019年度）

昨年度の「昭和東南海地震」に続くクラウドファンディング事業「迫りくる！スーパー伊勢湾台風に備えるために」を通じて、延べ3回にわたる特別シンポジウムと2種の巡検ツアーを企画する一方、減災館特別企画展「伊勢湾台風から60年～あのときの被害・避難・復興の実態に迫る～」(9月25日～1月17日)には研究成果を還元することにより、伊勢湾台風の脅威を地域の多くの方々とともに再検証しました。

令和元年7月1日(月)～9月26日(木)

伊勢湾台風から60年

クラウドファンディング 実施中

Gen Science Café
けんさいカフェ
【第100回】

第100回記念！のげんさいカフェも初の鼎談方式により、伊勢湾台風をテーマとして実施！！

伊勢湾台風-60年目に考える教訓

Guest
河川工学者 田代 喬 さん
名古屋大学減災防災センター副センター長・
ファイアイン 地震防災工学部防災学門教授
伊勢湾台風体験者 竹中 敬一 さん
元中興日本放送 (CBC) テレビニュース部長

2019.9.20(金) 18:00～19:30
名古屋大学減災防災センター
※事前申し込み不要
※フリースタイル飲み会を1人1杯以上
注文してください。
※駐車場はありません。
必ず公共交通機関をご利用ください。

第100回記念！のげんさいカフェも初の鼎談方式により、伊勢湾台風をテーマとして実施！！



第28回特別企画展

伊勢湾台風から60年

～あのときの被害・避難・復興の実態に迫る～

2019年9月25日(水)～2020年1月17日(金)

8回ものスペシャルギャラリートーク(↓)



日程	スペシャルギャラリートーク・テーマ	講師
9月26日	伊勢湾台風から60年：気象と被害の特徴	田代喬
10月16日・11月21日	大規模浸水と避難者支援	荒木裕子
10月17日・11月22日	減災館ツアー（伊勢湾台風に思いを馳せて）	倉田和己
11月13日	伊勢湾台風前後に岐阜県養老町・牧田川で繰り返された洪水氾濫	田代喬
12月5日	未来の伊勢湾台風と航空機観測	坪木和久(協力教員)
12月21日	スーパー伊勢湾台風の襲来に備える	田代喬

2020年度クラウドファンディングの当初計画 南海トラフ巨大地震を観る ～災（さい）と Seeing～

現地見学会を企画 ~~×~~ コロナ禍

北川先生の命名

【一例】三河地震を実感し、都市近郊直下型地震の脅威を体験するコース
(岡崎市発着：半日コース)

三河地震は、1945年（昭和20年）1月13日に、愛知県三河地方の浅い所で発生した逆断層型の内陸地震です。この地震は規模の割に被害が大きく、全体で死者2,306人、住家全壊7,221戸の被害を生じています。この見学会は、三河地震の被災地を中心に本地震を実感することが出来るルートを設定します。



三河地震で地表に表れた深溝断層



三河地震追憶之碑

その他4ルート

- ・濃尾地震を実感し、直下型地震の脅威を体験するコース
- ・昭和19年東南海地震を実感し、海溝型巨大地震の脅威を体験するコース
- ・中部地域の豪雨災害と治水の歴史を体験するコース
- ・軟弱地盤による液状化の脅威を体験するコース

災害を伝える場所を巡るオンラインツアー 「災（さい）とSeeing」（第3回：2020年度）

【プロジェクト本文】

今回は、各地に残されている自然災害にまつわる石碑や史跡を自宅に居ながらに巡り、過去の災害を実感し、「我が事感」を持って次の災害への備えを考えることができる、[オンラインのプログラム（映像コンテンツ）](#)を制作します。

「Withコロナ」の新しい生活様式を実践して暮らす中でも、災害は起こります。皆さまが感染防止を図りながらも、自然災害への備えを常に進めるための契機となるよう、いつでもどこでも気軽に学べるツールを、このコロナ禍の中、一刻も早く制作し、皆さまの元へお届けしたいと思っています。どうかあたたかいご寄附のほど、よろしくお願い申し上げます。

下記の写真は、愛知県の渥美半島の伊良湖岬灯台のふもとに残る「津波石」です。

津波石の重さは推定150トン！地質の状況から、沖合700mの場所から運ばれたものと推定されています。この巨大な石を運ぶほどの大津波が、過去にこの地域を襲っていたのです。

こうした、過去の災害を今に伝える場所から教訓を感じ取り、「我が事感」を持って将来の災害に備えることが大切なことだと、私たちは考えています。



伊良湖岬灯台の「津波石」（平川一臣北海道大学名誉教授提供）

作成中のコンテンツ【30分程度の音声付き動画】

1. 南海トラフの地震にまつわる東三河コース
2. 濃尾地震にまつわる尾張コース
3. 伊勢湾台風にまつわる名古屋・海部コース
4. 三河地震にまつわる西三河コース（番組名：三河凸凹地形さんぽ）

→西三河地区のケーブルテレビ(株)キャッチネットワーク制作 <https://www.katch.co.jp/>

おすすめツアーコースを選択するとツアーを疑似体験できます。



東三河コース
-実際はコースが少し
変更されています-

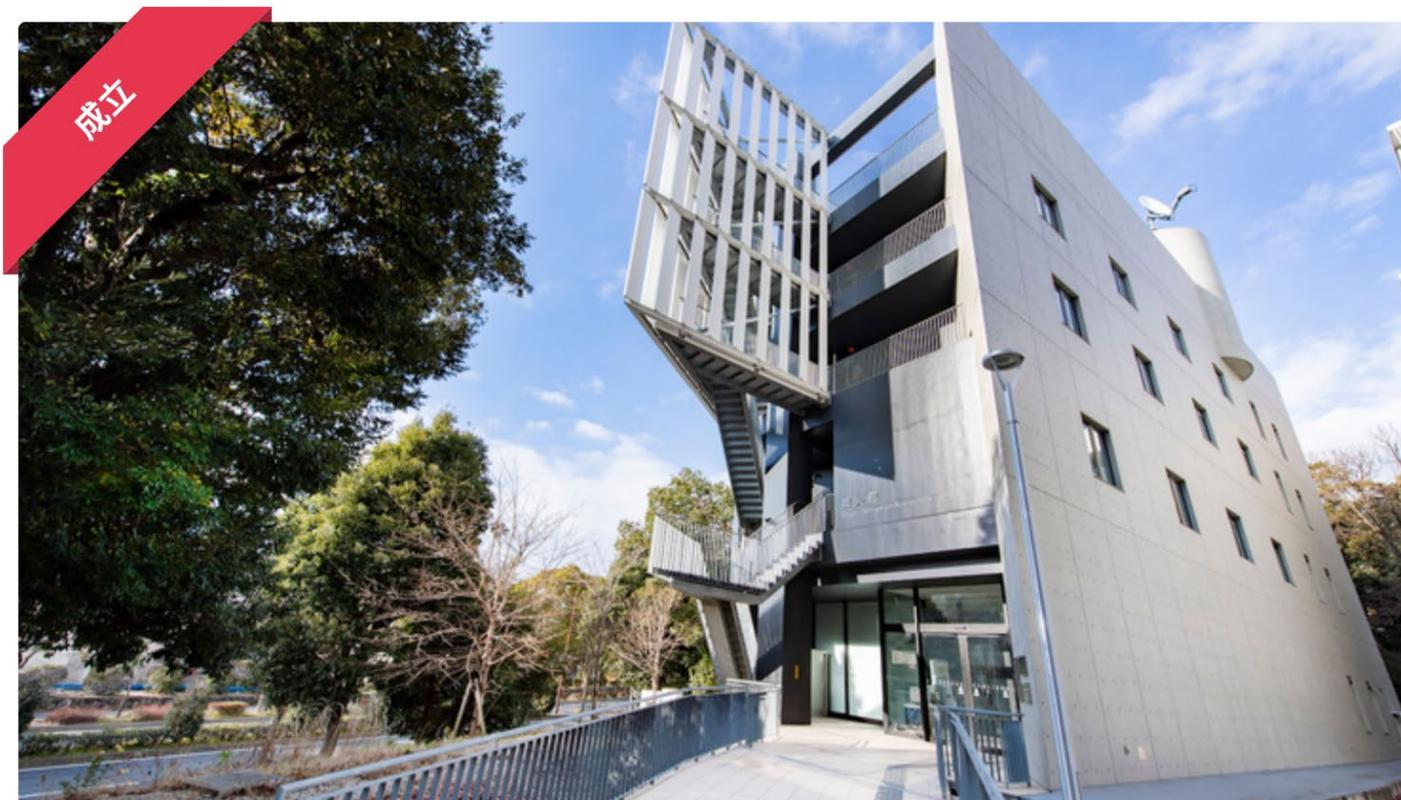
今後の展開

1. 災（さい）とSeeingの成果を基に、2021年度減災館特別企画展を開催

2. 2021年度 広域災（さい）とSeeingへの展開 成果を提供

- 災害（地震や洪水）の史跡等を映像で記録し、それを有識者の方に解説していただき防災啓発のためのコンテンツを作成し発信する。史跡等は、愛知県及びその周辺にも拡大する。
- 毎月、1史跡を対象とし、10分以内の映像コンテンツを制作する。
- メンバーは、名古屋大学、中部地域づくり協会、CBCテレビ、中日新聞。
- 制作した映像コンテンツは、各社自由に使用する。CBCテレビでは史跡等とグルメを組み合わせた番組を制作・放映。中日新聞は「備える」で新聞記事として掲載。名古屋大学、中部地域づくり協会はホームページで公開・情報発信。
- 年間スケジュールは中部地域づくり協会と名古屋大学で作成。学識者は名古屋大学で人選・依頼。
- 2021年3月末までに4社で覚書を締結し、2021年4月よりスタートする。

寄附者の皆様、誠にありがとうございました！



寄附総額

1,503,000円 目標金額 1,000,000円

寄附者 募集終了日

77人 2020年11月30日

プロジェクトは成立しました！



7

 シェア

 ツイート

 LINEで送る

 noteで書く